

こどもに対する

声かけ事案

に注意!!

6月は発生が最も多い月です

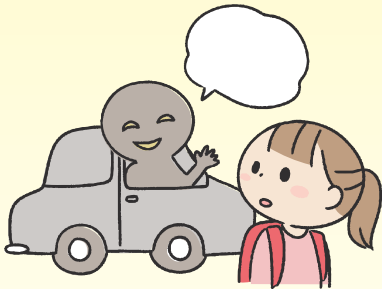
問 暮らしの安全課 (TEL 048-736-1126)

春から夏にかけて暖くなり、行事が増えるこの季節。こどもに声をかけてくる、後をつけてくるなど、こどもが不安を感じる不審者が多く出没する傾向にあります。特に近年は6月が最多傾向です。

また、市内では、令和6年中において、109件(前年比24件増)の声かけ事案が発生しました。身近に起きた防犯情報を入手し、家族で共有しましょう。

「こどもに対する声かけ事案」とは

18歳以下の者に対して、犯罪行為には至らないが「声をかける」「手を引く」「肩に手をかける」「後をつける」などの行為で、誘拐や性的犯罪などの重大な犯罪の前兆として捉えられる事案をいいます。



声かけ事案の傾向(県内・令和6年)

- 小学生と中学生対象 →約76.1パーセント
- 女子対象 →約63.8パーセント
- 下校・帰宅途中 →約53.6パーセント
- 単独行動時 →約59.3パーセント

こどもを守る4つの約束

- ①ひとりにならない
- ②知らない人*についていけない
- ③大きな声で助けを呼ぶ
- ④出掛けるときは「誰と・どこで・何時まで」出掛けるのかを家族に知らせる

※たとえ、知っている人でも家族に黙ってついていけない



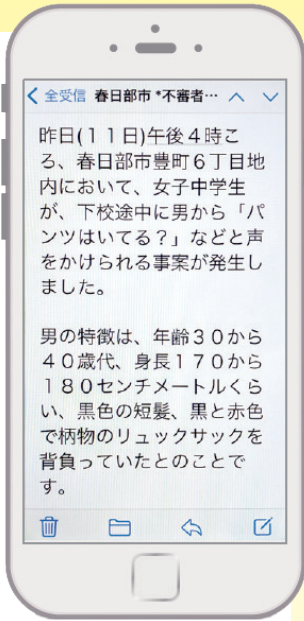
保護者の皆さんへ

お子さんを犯罪から守るためには、日常生活の中で、防犯指導が必要です。「自分の命は自分でも守る」ということを、具体的に繰り返し教えてください。あなたのお子さんの笑顔を守るため、よろしくお願いします。

市内での警察からの防犯情報(不審者情報)について、安心安全情報メール「かすかべ」で配信しています。ぜひ登録をお願いします。



▲配信登録はこちら



こどもの安全を守るため、青色回転灯車防犯パトロール活動(青パト活動)を実施しています。



住宅用火災警報器の設置と維持管理を

問 予防課 (TEL 048-738-3117)

消防法によりすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化されており、私たちの生活の中で重要な役目を果たしてくれます。



定期的に作動確認をしましょう

住宅用火災警報器って？

火災が発生した際、煙や熱を感知し、音声などにより火災の発生をいち早く知らせます。住宅の寝室などに設置することで、火災時の逃げ遅れ防止にもつながります。

設置したあとはどうするの？

設置したあとは、正常に使用できるよう、維持管理が大切です。住宅用火災警報器は、古くなるとセンサーなどの性能が劣化し、火災を感知しなくなることがあります。10年を目安に交換をしてください。

定期的に作動確認を行うことも重要です。

確認の方法は、本体の点検ボタンを押すか、本体から出ている点検ひもを引くことで確認できます。住宅用火災警報器に反応がなければ、本体の故障か電池切れのため、本体や電池の交換が必要です。

火災が起きてしまったら…

あわてず落ち着いて119番に通報をしてください。大きくなった火を無理に消そうとせず、大声で火事を知らせて避難しましょう。



人権それは愛 AI と人間の共存について ～偽情報に惑わされないために～

問 人権共生課 (TEL 048-736-1130)、社会教育課 (TEL 048-739-6808)

AI(人工知能)の技術発展に伴い、私たちの生活やビジネスは大きく変わってきています。日常生活におけるAIの活用例としては、スマートフォンの音声アシスタント機能が挙げられます。スマートフォンに話しかけることで、天気予報の確認、アラームのセットなどができるだけでなく、簡単な質問に対する回答や提案を受けることができるようになりました。

一方、ビジネスにおいても、チャットボット(人間の会話をシミュレートして自動的に返答するコンピューター・プログラム)を導入することで、オペレーターの負担や人件費の削減が可能になるため、さまざまな企業でAI技

術が導入されています。

しかしながら、AI技術が悪用することで、さまざまな問題も起きています。その一つに、人権侵害があります。最近では、政治家や著名人の動画像を細工した偽物をインターネット上に拡散させる「フェイクニュース」と呼ばれる問題が発生しています。さらに、学生間で同級生などの偽の画像を作成し、通信アプリで共有、拡散されていたという事件もあり、深刻な社会問題となっています。

AI技術の発展により、私たちの生活が向上した点は多分にあります。が、気が付かないうちに他者の人権を侵害しないように注意しな

ければなりません。また、インターネットの情報は、正しいものばかりではなく、うそや間違いなども多いため、情報の真偽を判断する能力を身に付けることが大切です。

